

# AIDS UPDATE

No.89 2009.2.6

広島大学病院  
エイズ医療対策室  
内線5581(輸血部長室)  
Internet:www.aids-chushi.or.jp

見落さないためのポイント！！

平成20年度職員向け  
エイズ講演会

## HIV・AIDS診断を考える

講師：岩田健太郎 先生

(神戸大学大学院医学研究科微生物感染症学講座 教授)

日時:平成21年2月12日(木)

時間:17時45分～19時00分

会場:広島大学医学部 第4講義室

職員の方は、職員証により受付を行いますので、必ず職員証をお持ち下さい。

職員以外の方も大歓迎です。

皆さまお誘い合わせのうえ、是非ご参加下さい。

主催:広島大学病院感染症対策委員会  
広島大学病院エイズ医療対策室

# アメリカ サンフランシスコ研修を終えて

薬剤部 薬剤師 太刀掛 咲子

2008年11月29日から12月14日まで、HIV海外研修としてサンフランシスコへ行ってきました。参加者は北海道、石川県、三重県、広島県から2名の計5名でした。

サンフランシスコへ到着したのが、土日ということもあり、到着日はこの研修のコーディネータと通訳をくださった小林まさみさん、David Weisnerご夫妻より研修内容、予定についての打ち合わせがありました。それからサンフランシスコを案内していただきました。

以下のような研修内容でした。

12月1日 レクチャー:HIVの治療とケアについて  
 12月2日 HAARTのガイドラインについて  
 12月3日 HIV患者の消化器の病態と内視鏡の洗浄方法について、長期患者さんとの面談(ドラッグについて)  
 12月4日 HIV患者のC型肝炎について(統計、HCVの病態について) MSWの患者との関わりについて  
 12月5日 歯科病棟の院内感染予防について コミュニティーケアについて  
 12月8日 患者と医師との関わりについて  
 ビデオ:AND THE PLAYED ON

12月9日 HIV感染症の画像診断  
 ホスピスケア(施設見学、レクチャー)  
 12月10日 HIVチームミーティング参加  
 薬剤師の役割についての講義  
 AIDSケースマネジメントと Home Careについて  
 12月11日 ドラッグについて(施設見学、レクチャー)  
 Medical Management of HIV/AIDS(学会見学)  
 12月12日 まとめとディスカッション  
 12月13日 サンフランシスコ発



今回の研修でエイズ医療から地域での予防教育活動まで多くのことを学びましたが、日本との差を実感した内容について報告します。

## 医療保険について

日本では国民全てが医療保険に加入することとなっていますが、アメリカでは所得ごとに入る保険が分かれており様々な制限があります。(左表参照)

日本	アメリカ
国民全てが公的医療保険に加入する国民皆保険体制	公的医療保険 Medicare: 基本的には65歳以上、慢性疾患 Medicaid: 医療保護保険、低所得者向け
公的医療保険 政府管掌健康保険(政管健保) 組合健康保険(組合健保) 国民健康保険 船員保険 日雇保険 共済組合 後期高齢者医療制度	Managed Care(民間の医療保険) Indemnity Insurance Plan: 保険料は高いが、どこの病院でもどの医師にも受診可。 PPO: 主治医を選ばなくても直接専門医に受診出来る。受診できる医療機関に制限有。 HMO: 主治医にまず見てもらい、必要であれば専門医に紹介。指定された医療機関でしか治療してもらえず、受けられる治療も限られ、薬の種類にもかなり制限がある。
民間医療保険	POS: 主治医にまず見てもらう必要があるが、選べる専門医の範囲が広い。

日本では誰もが希望した病院、医師に関わることが出来ますが、アメリカでは所得や保険により医療機関や薬剤に制限があります。

アメリカ人は医療、健康への関心が高く、更に医療機関では患者自身が自分のカルテをパソコンで見ることが出来るシステムも備わっています。

## ホスピスや終末期医療について

アメリカでは、ホスピスや在宅医療が主になっており、携わっているのは主に看護師、ソーシャルワーカーです。看護師は患者が急変した場合、看護師が診断し、薬剤の処方や処置等を行います。ソーシャルワーカーは社会的援助や精神的ケアを行います。

そして、必要であればコミュニティやボランティア等に参加を促したりします。

	アメリカ	日本
終末期の場所	主に在宅 13%:ホスピス	主に病院
対象となる疾患	HIV、癌、 COPD、 C型肝炎等	癌疾患
SWとの関わり	常に有	ほとんど無し (転院時、 医療費削減)
ボランティアの関わり	有	無
医療費	収入・保険により相違	同じ

日本ではホスピスケアとはがん患者を対象としており、酸素吸入、輸液管理などといった緩和ケア治療を病院で行うことが定着しています。

しかしアメリカでは癌患者だけでなく、HIV、COPD、C型肝炎等の患者と対象としています。

生命維持の治療を全く行わず、死を迎える患者とその家族に対する身体的ケア、精神的ケアを在宅内外に関わらず行います。

サンフランシスコではちょうどクリスマス時期で、至る所にツリーが飾られていてとても華やかできれいでした。

また、サンフランシスコのフィッシャーマンズワーフのクラムチャウダーがとてもおいしく忘れられない味でした。みなさんもサンフランシスコへ旅行に行かれる際は是非食べて下さい。



最後に、AIDSの医療体制や患者のケア、感染予防などサンフランシスコでは大変進んでおり、今回の研修でアメリカに暮らす人達の習慣や考え方などを知ることができ貴重な体験になりました。

このような機会を与えて下さった先生方に感謝しています。この場を借りてお礼申し上げます。

## 第22回抗HIV薬服薬指導のための研修会 ご報告

薬剤部 薬剤師 関野 由希

1月10日・11日に第22回抗HIV服薬指導のための研修会が行われました。HIV拠点病院スタッフを含め、北は北海道、南は九州まで、薬剤師・医療ソーシャルワーカー(以下MSW)・心理カウンセラーの合計61名が参加しました。

1日目は、大阪医療センターの西田恭治先生、新潟大学歯学総合病院のカウンセラーである古谷野淳子先生、東京医科大学病院薬剤部の関根祐介先生による講義と患者さんのお話がありました。

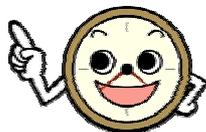
西田先生には「HIV感染症の治療」というテーマで、抗HIV療法の基礎と歴史、早期治療のメリット、新薬・臨床試験・日和見感染についてなど、盛りだくさんの内容を話して頂きました。初心者にとっても大変わかりやすい内容でした。日々変化をたどる治療・薬、多くの日和見感染に対して常に何かを学んでいかなければと感じました。

古谷野先生は、「チームメンバーに対する配慮と、患者さんに対する中立性のバランスが難しい」と述べられていました。薬剤師もチームの一員です。

カウンセラーの視点からですが、患者さんを軸にお互いの専門分野をどう調和させて行くか、薬剤師も参考にすべき点は多いと感じます。

関根先生には症例報告をして頂きました。これには薬剤師のみが参加しました。ドラッグユーザーと悪性リンパ腫を発症した2例でした。麻薬や覚せい剤について知識を深められたこと、家族や職業などの生活背景まで頭に入れた上で慎重に服薬指導に当たるとということなど、臨床経験のない私には新鮮な話でしたが、将来自分が患者さんに接するとき大切なことは何か、少しだけわかった気がします。

そしてこの研修会では恒例の、患者さんをゲストに迎えてのお話ですが、今回の方は今までで1回しか飲み忘れがないという素晴らしいアドヒアランスの持ち主でした。



秘訣は犬を飼い、規則正しい生活を送ること、信頼できる人に感染者であると告げた結果、普段の会話に「薬」が出てくることで飲み忘れ防止になるそうです。他には副作用の実体験など、こちらが考え付かないような貴重な声が聞けました。

夕食をはさみ、その後は薬剤師、MSW、心理カウンセラー合同で広島大学の臨床心理士である児玉憲一先生、内野悌司先生にご指導いただきながら「ロールプレイによる服薬指導の体験的学習」を行いました。



今回は「うつ症状が出現し薬剤変更を検討する例」「ある日ドラッグの使用が発覚した例」「服薬を開始する前の例」という3つの場面を設定し、2日目に本番とディスカッションを行いました。

配役が凝っているグループもあり、臨場感あふれるものとなりました。

ビデオで見ることで言葉づかいや話し方など、その場では気付かなかった部分が見えてきて、ディスカッションでは様々な意見が飛び交い、医師、薬剤師、MSW、カウンセラーという立場は関係なく、全員が真剣に取り組んでいました。

この研修会ではHIVに関する知識を得られるだけでなく、様々な職種と合同で行う実践型のプログラムでコミュニケーション能力を鍛えられます。さらには患者さんの生の声も聞け、全国レベルでの交流が深められるという魅力的な要素がたくさんあります。

私にとっては3回目の参加ですが、毎回、少しずつ違う話題や楽しみがあるので、これからも多くの方に参加して頂ければと思っています。



### HIV感染症専門薬剤師・薬物療法認定薬剤師制度について



治療をうまく進める為には、抗HIV薬の服薬率を95%以上保つことが必要とされています。しかし、副作用や相互作用などの問題をクリアしなければならず、薬学的な管理が重要になってきます。そこで、高度な知識・技能を備えた薬剤師育成のため、平成21年度より、HIV感染症専門薬剤師と認定薬剤師の認定が始まります。

申請資格は日本病院薬剤師会のホームページに記載されていますが、その中の一つに「日本病院薬剤師会が認定するHIV感染症領域の講習会、及び別に定める学会が主催するHIV感染症領域の講習会などを所定の単位（10時間、5単位）以上履修していること。」とあります。

この研修会は上記の講習会に該当するので、参加すると一回で単位が取得できます。

## 今後のHIV/AIDS関連イベント

### 平成20年度包括的HIVカウンセリング研修会

日時：2009年3月14日（土）～15日（日）

場所：アパホテル倉敷駅前（岡山県倉敷市）

主催：広島県臨床心理士会

#### <ご意見募集>

ご意見やご希望がありましたら、

エイズ医療対策室（5351/5581）までお寄せください。